

股関節周辺の軟部組織の損傷

PATIENT INFORMATION FACT SHEET

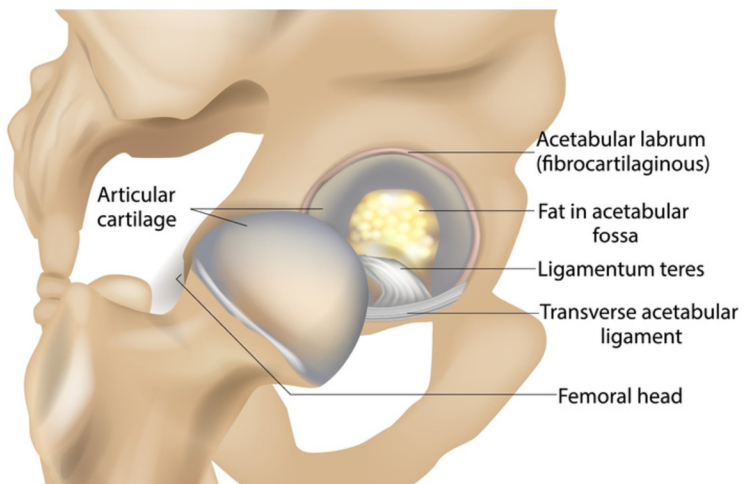
股関節周囲には、滑液包、腱、靭帯、筋肉に影響を及ぼす軟部組織の損傷や病態が多く見られます。これらは多くの場合、手術せずに治療されますが、手術が必要な場合は、股関節温存外科医に相談することをお勧めします。損傷する可能性のある構造の例を以下に示します。

テレス靭帯（別名：大腿頭靭帯）

この靭帯は紐状の構造で、一端が大腿骨頭に、もう一端が股関節窩（寛骨臼）に付着しています。この靭帯は2本の平行な線維性バンドからなり、過度の可動域を制限することで股関節を安定させ、プロプリオセプションを補助していると考えられています。

クリック感やロッキングの症状がみられることもある。大腿靭帯の損傷は、脱臼のような外傷性のものと、不安定性、使い過ぎ、大腿骨寛骨臼インピンジメント（FAI）のような他の疾患に伴う慢性炎症、過可動性のような非外傷性のものがある。

断裂は部分的であることが多いが、完全断裂の可能性もある。画像診断では大腿靭帯の損傷は発見されず、他の非外科的治療や診断がすべて失敗した場合に、股関節鏡検査で初めて発見されることもあります。損傷していることが判明した場合、外科的治療としては、損傷した組織の除去や整復、再建が行われる傾向があります。後者の手術では、例えば[SS1] [SS2]のように、患者自身のハムストリングス腱の一部を用いて、損傷した靭帯を移植靭帯と置き換えます。



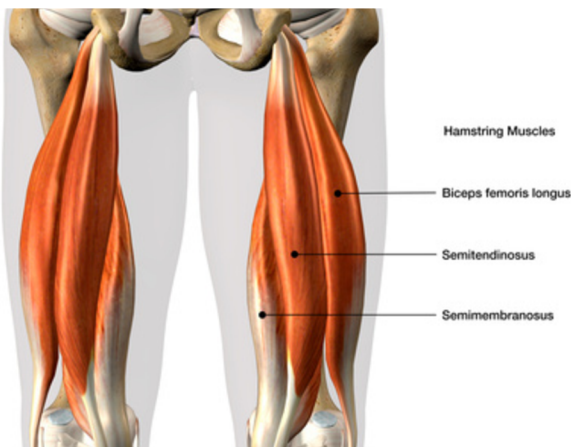
For further information about ISHA - The Hip Preservation Society, how to find an experienced hip preservation surgeon or physiotherapist, or to make a donation, visit www.ishasoc.net. Charity registered in England and Wales, number 199165.



ハムストリングス

ハムストリングスの3つの筋肉は太ももの後部に位置しています。膝周りの様々な付着部から坐骨結節まで伸びています。ハムストリングスの損傷は、スポーツをする人に多く発生する傾向があり、筋が腱性になる部分（筋腱接合部）や、ハムストリングスの腱が骨盤の坐骨結節に付着する部分で、程度の差はありますが断裂を起こします。損傷は軽い歪みから、腱が坐骨結節から完全に剥離するような大きな損傷まであり、骨の一部と一緒に剥離することもあります（剥離骨折）。腱の損傷は使いすぎによる損傷でも起こり、繰り返しの動作によって腱が結節に付着している近くで変性することがある。

ハムストリングスの腱が1本以上断裂した場合、ポキポキと鳴るような感覚や断裂感を覚え、著しい打撲、ピンや針、機能低下を訴えることがあります。レントゲンやMRIによって、軟部組織の損傷の程度や骨損傷の有無を確認することができます。



非外科的治療

理学療法は、より軽度のひずみや腱の状態に対して有効であり、氷、抗炎症薬、安静と活動性の改善、軟部組織療法、段階的な運動プログラムなどを用いて、受傷前の活動に徐々に戻していきます。重傷の場合は、外科的治療が必要となる。

外科的治療

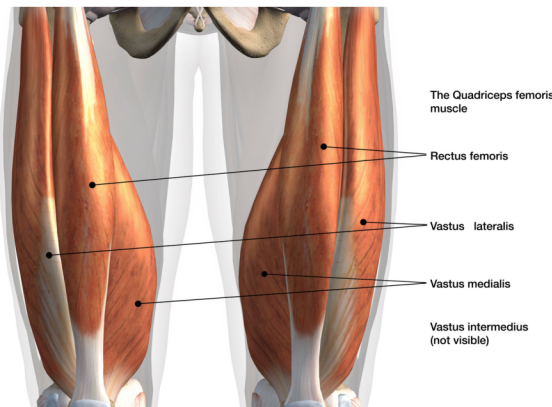
開腹手術または股関節鏡を用いて、坐骨結節に到達し、剥離または断裂した腱を修復して再接着する。その他の軟部組織の損傷や、滑液包炎など懸念される部位にも対処することができます。股関節温存手術の専門医の中には、以下のような理由から、関節鏡視下手術ではなく、観血的アプローチでこの手術を行う医師もいる：

- 移植片の必要性
- 再建手術の遅れ；
- 癒痕組織の形成
- 外科医の好み。

通常の活動やスポーツに復帰するには、一定期間のリハビリが必要である。この期間には、腱の修復が治癒するまでの時間を考慮しながら、徐々に可動域を広げ、柔軟性を回復させながら、段階的に完全な体重負荷に戻していくことになるでしょう。術後は、一定期間、股関節の動きを制限する装具を装着する必要があるかもしれません。

大腿四頭筋の損傷

太ももの前面には、大腿四頭筋という4つの筋肉があります。大腿四頭筋は、膝関節の周囲から上方に伸び、骨盤と股関節の前面のさまざまな場所に付着しています。大腿直筋は4つの筋肉の中で最も大きく、膝をまっすぐに伸ばしたり、股関節を曲げたりする働きがある。その大きさゆえに大きな力を伝えることができるため、ジャンプやスプリントなどの爆発的な動作の際に損傷が起こりやすい。



損傷は、大腿直筋の3つの部位で起こりうる：

- 主筋腹部
- 筋が腱性になる部分
- 腱が骨盤に付着する部分

大腿直筋腱（近位[SS5]大腿直筋）が骨盤から完全に剥離し、骨の一部が骨盤から離断することもある（剥離骨折）。損傷の程度によって、必要な最善の治療法が決まります。

手術以外の治療

ほとんどの大腿直筋損傷には、安静、氷、手技、段階的な運動療法、活動性の改善を組み合わせた理学療法が有効である。

外科的治療

腱が完全に断裂している場合や剥離骨折が起きている場合は、外科的修復が必要になることがあります。その後、通常の活動やスポーツへの復帰を目指したりリハビリを行う。

内転筋損傷

股関節内転筋は太ももの内側にあり、5つの筋肉から構成されているが、長内転筋の損傷が最も多い。

損傷は通常、スポーツ活動によるものである。安静、冷却、抗炎症薬の使用、手技療法、運動療法、通常の活動やスポーツへの段階的な復帰などを組み合わせた非外科的治療が有効であることが多い。慢性的な内転筋腱の問題が生じている場合や損傷が重度の場合は、外科的治療が必要になることもあります。股関節温存外科医とのカウンセリングが行われ、身体検査やX線、MRIなどの画像診断が行われた上で、手術が必要かどうか判断されます。その後、リハビリテーションを行います。

